


氏 名	谷 真 規 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4903 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	The Incidence and Prognostic Value of Hypochloremia in Critically Ill Patients (重症患者における低クロール血症の頻度と予後因子 としての意義)

論文審査委員 教授 氏家 良人 教授 千堂 年昭 教授 前島 洋平

View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

brought to you by  CORE

provided by Okayama University Scientific Achievement Repository

学位論文内容の要旨

重症患者におけるクロール (Cl) の意義はほとんど知られていない。われわれは、重症患者を対象とした後方視的観察研究で、Cl 濃度異常の頻度、酸塩基平衡に与える影響、臨床的予後との関連を研究した。

電子診療録から動脈血液ガス・血液生化学検査結果、患者背景データを抽出し、酸塩基平衡は定量的に分析した。各患者の最低 Cl 値によって対象を 3 群に分け、比較した。

高 Cl 血症 16.6%、正 Cl 血症 74.6%、低 Cl 血症 8.8%であった。低 Cl 血症群は他の 2 群と比較して有意に酸塩基平衡が塩基性に傾き、強イオン差 (apparent Strong ion difference: SIDa) も有意に高かった。また、低 Cl 血症群は有意に集中治療室・病院滞在日数が長く、死亡率も高かった。しかし、多変量解析の結果 Cl 値は独立した予後不良因子ではなかった。低 Cl 血症を呈する重症患者の酸塩基平衡は塩基性に傾き、SIDa 高値を伴っていた。独立した予後因子ではなかったが、低 Cl 血症は重症患者の予後不良と関連していた。

論文審査結果の要旨

本研究は、集中治療における重症患者の血清塩素イオン値と予後との関連を後方視的に検討した臨床研究である。低塩素イオン値は、予後を決定する独立因子ではなく、従属因子であることを統計学的に証明し、低塩素イオン血症の患者では予後が悪いことを示した最初の報告である。このことは、臨床的に価値のある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。